

シリーズ「グローバル・ジャスティス」  
第14回

# ジャーナリズムの公共性と ケアの倫理

## 林 香里

東京大学大学院情報学環 教授



本セミナーでは、従来「表現の自由」や「権力の監視」という規範を参照して語られてきたジャーナリズムを、「ケアの倫理」という新たな倫理によって考えてみたい。グローバル化、産業化、個人化などの現象が同時進行する現代社会は、移住労働者や宗教的マイノリティの処遇、社会の高齢化や格差問題といった多様で複雑な課題に直面している。さらに日本では、東日本大震災復興と被災者ケアの問題に取り組んでいかなければならない。

林先生は、これらを報道するにあたって、「だれ一人として取り残されたり傷つけられたりしてはならない」とする「ケアの倫理」が報道者に多くの示唆を与えてくれると提案しています。

コメンテータ：加藤 千洋

(グローバル・スタディーズ研究科 教授)

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： 6月28日(火)

18:30-20:00

会場： 博遠館 212 番教室

来聴歓迎・予約不要

同志社大学  
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. [ji-gs@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-gs@mail.doshisha.ac.jp)